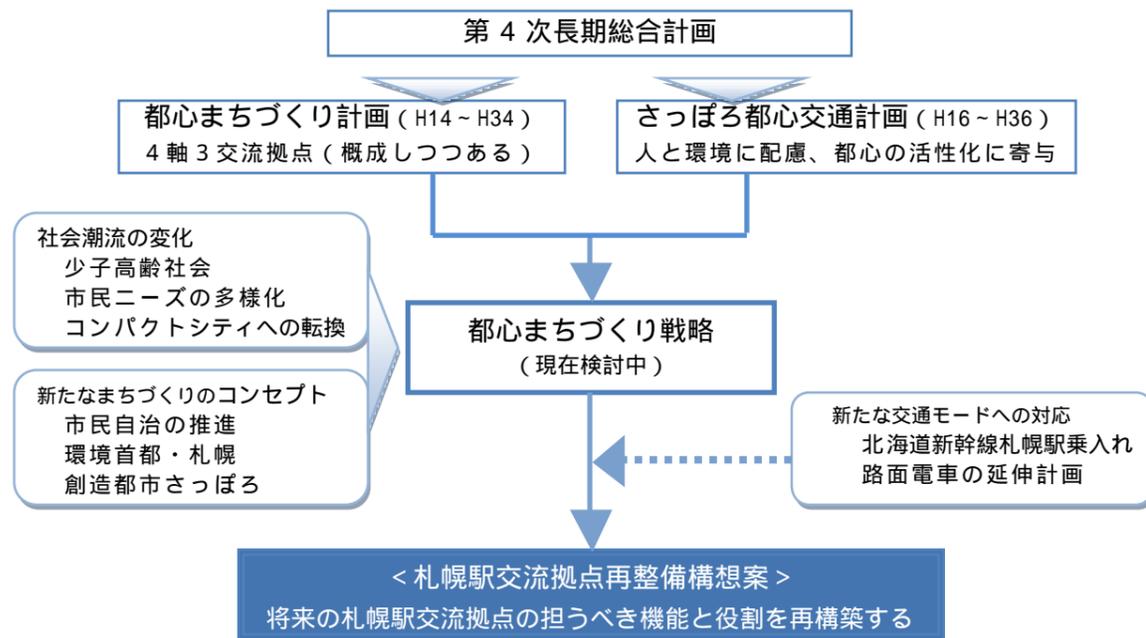


1. 「札幌駅交流拠点再整備構想案」策定の目的と位置づけ

(1) 「札幌駅交流拠点再整備構想案」策定の背景と目的

- 札幌市の都心のまちづくりは、「都心まちづくり計画」に基づいた4軸3交流拠点からなる骨格構造の実現に取り組んできた。
- それらの骨格構造が概成しつつある中で、少子高齢社会の進展や市民ニーズの多様化、低炭素社会の実現、コンパクトシティへの転換など、都心を取り巻く情勢は大きく変化している。
- 札幌駅都心部の現況においては、札幌駅南口再開発などにより、すすきの地区・大通地区・札幌駅周辺地区のこれまでの均衡が変化し、札幌駅周辺地区に人の流れやにぎわいが偏る傾向が強まっている。
- さらに、「市民自治の推進」や「環境首都・札幌」、「創造都市さっぽろ」などといった新たなコンセプトに対応したまちづくりが求められている。
- こうした背景を受けて現在、札幌市では「都心まちづくり戦略」として、都心の目指すべき将来像とその方針を検討している。
- 現況の交通課題への対応や、北海道新幹線の札幌駅乗り入れや路面電車の延伸計画が検討されており、こうした新たな交通モードへの対応が札幌駅交流拠点に求められている。

「札幌駅交流拠点再整備構想策定案」の目的
 「札幌駅交流拠点再整備構想案」は、社会情勢の変化及び新たなまちづくりのコンセプトや新たな交通モードへの対応など、交通結節点としての課題を受けて、将来の札幌駅交流拠点の担うべき機能と役割を再構築することを目的とする。



(2) 「札幌駅交流拠点再整備構想案」の位置づけと主な検討事項

【位置づけ】

札幌駅交流拠点再整備構想案は、将来の札幌駅交流拠点の担うべき機能と役割を再構築して、今後の各種事業の実施計画の基本方針とする。

【主な検討事項】

土地利用

交流拠点としての新たな導入機能
 創成川以東地域のまちづくりへの波及、発展を促す機能
 周辺民間開発を活かしたまちづくりの誘発
 札幌駅前通地下歩行空間などの公共施設整備の効果を踏まえたまちづくり

交通結節点

現状の交通課題の解消（タクシープール、周辺交通渋滞の解消など）
 札幌駅のバスターミナル機能のあり方と再編の必要性
 新たな交通モードへの対応（北海道新幹線の札幌駅乗り入れ、路面電車の延伸）

交流拠点としての札幌駅

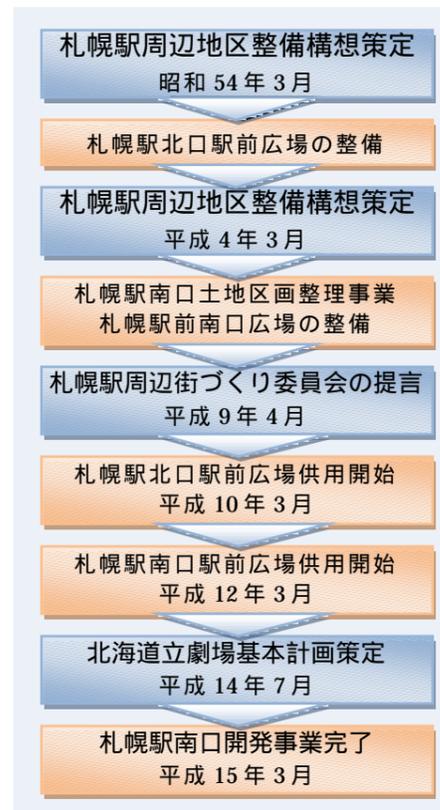
国際都市さっぽろ・道都さっぽろの玄関口として担うべき機能
 札幌への来訪者を札幌駅から都心部へ誘導する機能
 都市観光の拠点としての機能

アウトプットのイメージ

札幌駅交流拠点の位置づけ
 札幌駅交流拠点のまちづくりにおける位置づけや役割の明確化
 新たな導入機能のあり方
 多様な機能の創出 ~ 都市の魅力・都心の魅力を高めるために必要な機能 ~
 「創造的都市」を推進する機能
 都市観光の視点から国際都市・道都の玄関口としての機能
 札幌駅交流拠点としての機能の充実
 魅力的な都市空間の創出
 交通結節点の機能強化のあり方
 現状の交通課題に対応する機能
 新たな交通モード（北海道新幹線、路面電車）への対応
 今後の交通関連諸計画（実施計画）に向けた基本方針の確立

(3) 札幌駅交流拠点のまちづくりの経緯

- 札幌駅周辺地区においては、「札幌駅周辺地区整備構想策定(昭和54年(1979年)3月)」により札幌駅北口駅前広場の整備が進められた。
- その後、「(第2期)札幌駅周辺地区整備構想策定(平成4年(1992年)5月)」により、札幌駅南口土地区画整理事業と札幌駅南口駅前広場の整備が進められた。
- 平成9年(1997)4月には、「札幌駅周辺街づくり委員会」により提言が出されている。
- その後、平成10年(1998)3月に札幌駅北口駅前広場、平成12年(2000)3月に南口駅前広場が供用開始され、札幌駅交流拠点は現在へと至っている。
- 都心まちづくり戦略や新中心市街地活性化基本計画などの各種計画や、北海道新幹線や路面電車などの関連事業が検討されている。



今後策定される関連計画

- 平成22年3月(予定) 「都心まちづくり戦略」の策定
- 平成22年3月(予定) 「新中心市街地活性化基本計画」の策定
- 平成22年3月(予定) 「路面電車の延伸計画」の素案作成
- 平成22年3月(予定) 「各地下鉄駅からの乗り継ぎ計画」の見直し
- 平成23年3月(予定) 「札幌市総合交通計画」の策定
- (検討中) 「札幌駅前通地区エリアマネジメント」の推進

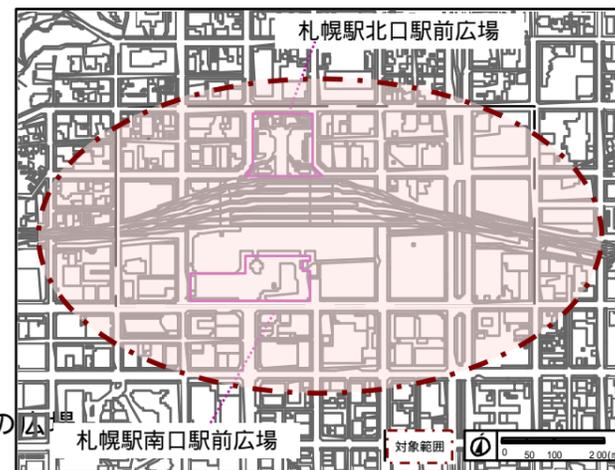
(4) 「札幌駅交流拠点再整備構想案」の主な対象範囲

札幌駅を中心とした右図の範囲を基本とする。

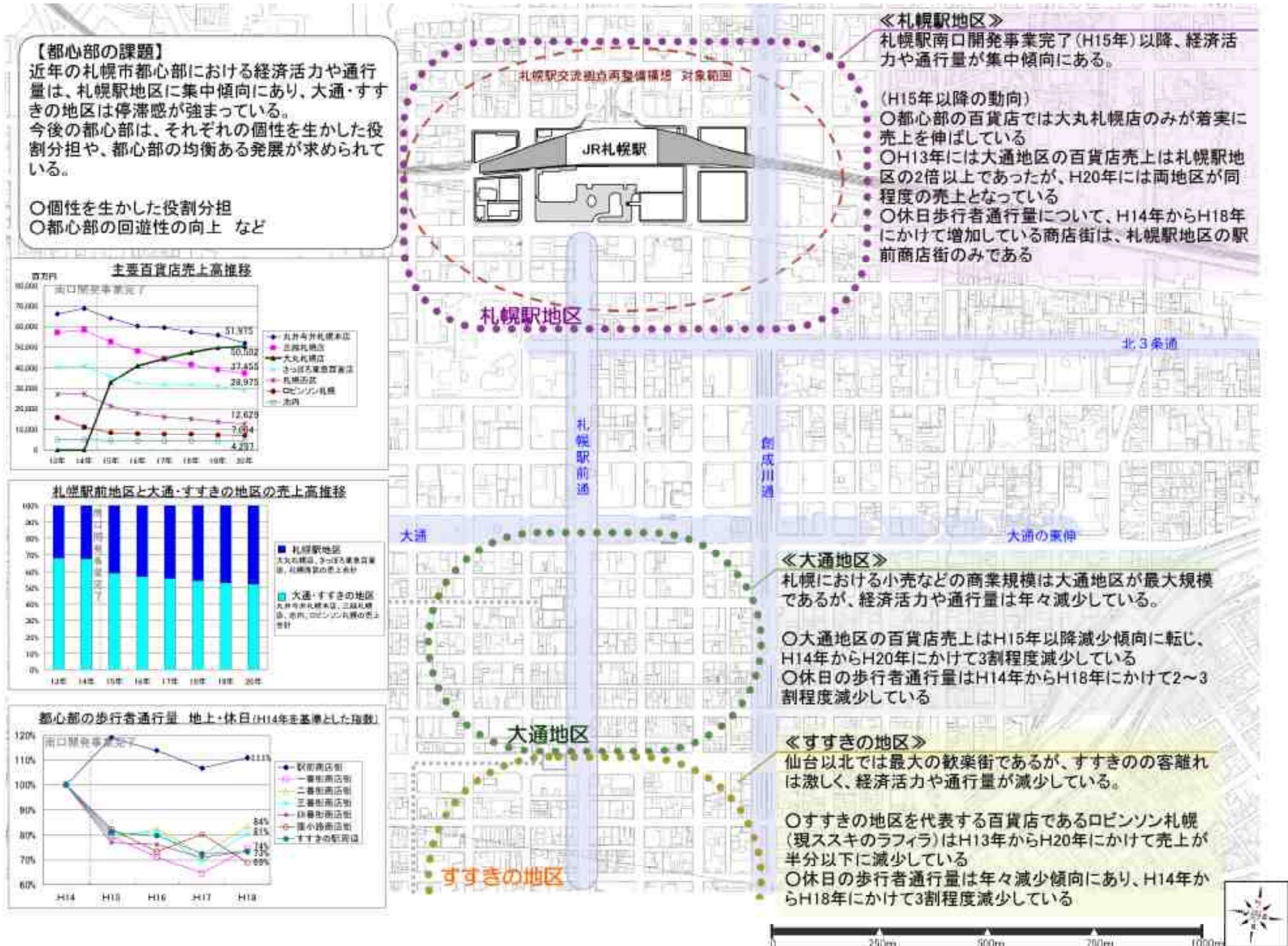
【駅前広場の概要】

- 札幌駅北口駅前広場
面積: 19,500 m²
供用開始: 平成10年3月
位置づけ: ゆとりのある交通機能を持った「交通広場」
- 札幌駅南口駅前広場
面積: 19,000 m²
供用開始: 平成12年3月
位置づけ: 出会い、ふれ合い、旅立ちが展開される「人の広場」

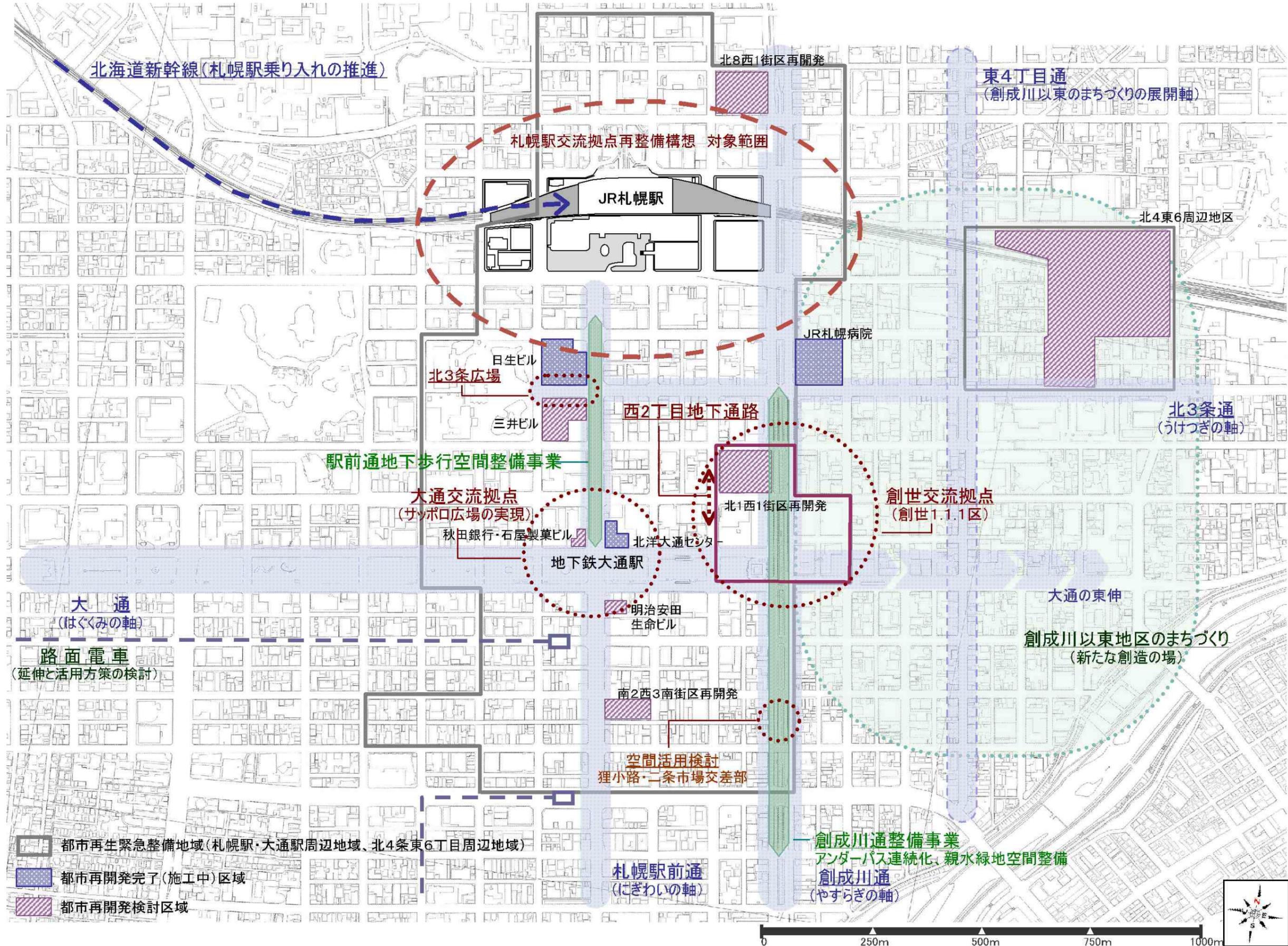
主な対象範囲



2. 札幌都心の状況



3. 札幌都心の関連事業の概要



4. 「都心まちづくり戦略」(上位計画)の認識

(1) 「都心まちづくり戦略」の位置づけ

- 「札幌駅交流拠点再整備構想案」の上位にあたる「都心まちづくり戦略」は、都心の目指すべき将来像とそれを実現する手順や効果などをわかりやすく明示することで、多様な関係主体が協働して一体的にまちづくりを行っていくための指針となるものである。
- 市長公約としてマニフェストに盛り込まれているほか、第2次新まちづくり計画(平成19年度～22年度)の対象事業となっている。
- 平成20年には、有識者、専門家等からなる「都心まちづくり戦略会議」を設置し、都心の将来像のあり方や、空間形成の考え方などについて検討し、基本的な方向性として取りまとめた。

(2) 「都心まちづくり戦略」の基本的な考え方

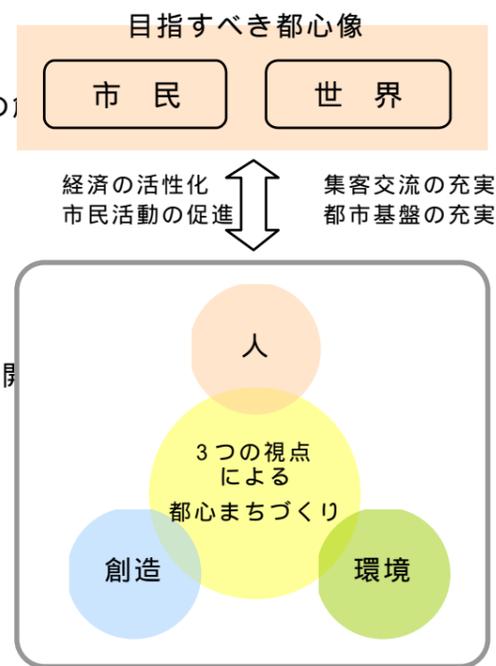
【都心まちづくり戦略の狙い】

『世界に向け魅力を発信し、市民生活を豊かにする都心の』

- 都心における経済の活性化、集客交流の充実、市民活動の促進、都市基盤の充実といった取組を通じて、『道都さっぽろ』の中核として、世界に札幌の魅力を発信し続け、市民生活の豊かさを享受できる場となることが期待される。

『「人」「創造」「環境」を視点とした都心まちづくりの展開』

- 都心が多様な人々の活動・交流・回遊の場となるための空間形成を促進し、更に、「環境都市」「創造都市」等の具体化の方向性を都心において先導的に展開し、札幌の新たな魅力と価値を創出する。



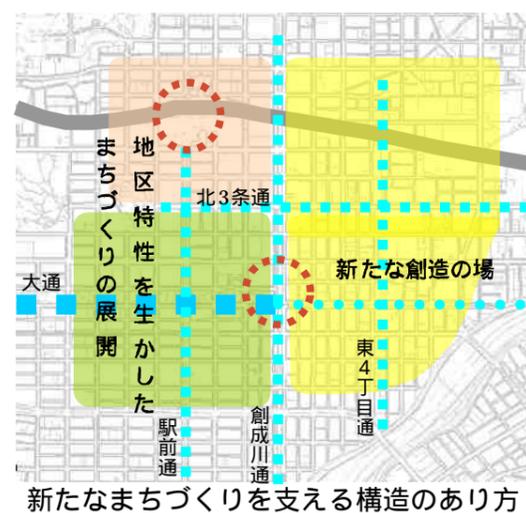
【新たなまちづくりを支える構造のあり方】

『構造的原点回帰』

- 創生川通と大通を機軸とし、東西市街地の一体的なまちづくりにより、一体的な都心域を形成し、相互補完を図る。

『地区特性の回帰』

- 既存都心における各地区の地区特性と、創成川以東地区のポテンシャルを生かしたまちづくりの展開を図る。



(3) まちづくり展開方策と展開プログラム

平成21年度は、平成20年度に検討された展開方策をもとに、「都心まちづくり戦略庁内検討会議」などで、具体的かつ実効性のある展開プログラムを検討し、都心まちづくり戦略として策定している。

展開方針1

連鎖・連携による一体的なまちづくり

- 連鎖・連携によるまちづくりの展開
- 投資を呼び込む付加価値の創出
- 一体的な都市環境対策の推進
- 地区間・地域間の相互連携の推進

展開方針3

創成川以東のまちづくりを通じた都心の新たな価値の創出

- 新たな都心の価値創出に向けた挑戦
- まちづくり展開の基軸
- 既存ストックの活用
- まちづくりの展開を支える交通基盤

展開方針2

人を中心とした都心空間の形成

- 多様性・選択性を生み出す公共空間の形成
- 交流の場の創出
- 回遊・交流を支える交通基盤

展開方針4

エリアマネジメントの強化

- 既存まちづくり組織の醸成
- 企画・形成・活用の仕組み
- 良質な市街地ストック形成

5. 「札幌駅交流拠点再整備構想案」策定における市民参加について

(1) 「札幌駅交流拠点再整備構想案」策定の市民参加の手法

【市民参加の必要性】

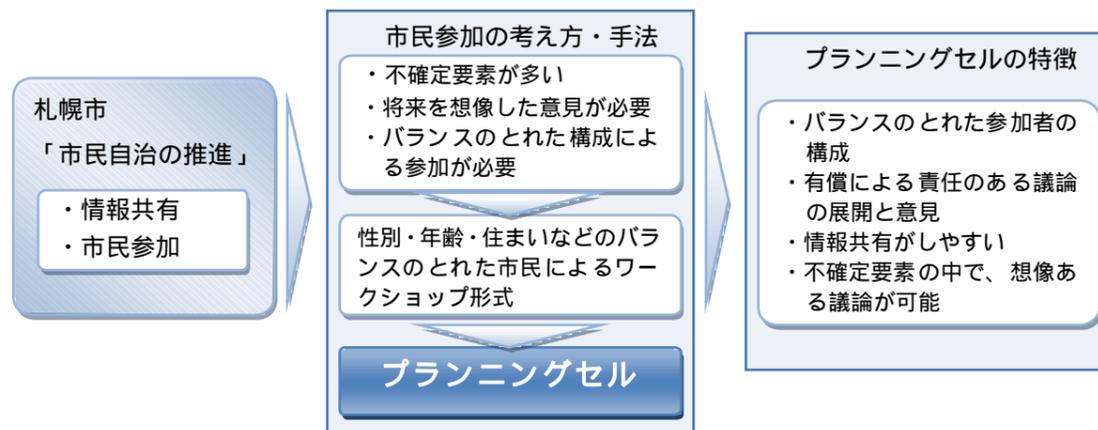
- 札幌市の市政の推進にあたっては、財政状況の逼迫により事業の選択と集中が必要となる一方で、多様化する市民ニーズに対応することが求められている。このような中、札幌市では情報共有と市民参加に重点を置き「市民自治」を推進している。
- このため、「札幌駅交流拠点再整備構想案」策定においても、市民の情報共有と「市民参加」を行う。

【市民参加の考え方】

- 札幌駅交流拠点の利用という視点では、不特定多数の人が利用する施設であることから性別や年齢、住まいなど偏りのない市民の参加を募り、一般的な市民傾向を把握することが望まれる。
- また、「札幌駅交流拠点再整備構想案」では、北海道新幹線の札幌駅乗入れや路面電車の延伸、北5条西1丁目街区の土地利用など不確定要素が多く、それらが複雑に関連していることから、市民に対して直接情報を提供して質疑応答などを行いながら、市民と情報共有を進めることが効果的であると考えられる。
- 加えて本構想はおおよそ20年後を想定していることから、市民参加では将来を想像しながらアイデアや意見を出してもらうことも必要であるため、ワークショップ形式での検討が効果的である。
- 以上のことから、「札幌駅交流拠点再整備構想案」策定のための市民参加は、性別や年齢、住まいなどバランスを考えた市民の参加によるワークショップ形式で行い、発想をふくらませてもらい意見やアイデアを引き出ししながら、一般的な市民の意見傾向を把握することを目的とする。

【市民参加の手法】

- 上記の要件を満たすため、「札幌駅交流拠点再整備構想案」策定の市民参加では、「**プランニングセル**」という手法を用いる。
- 「プランニングセル」は、参加者を無作為抽出でバランス良く選び、有償で限られた期間で与えられたテーマについて議論することが特徴である。そうすることで、参加者の発言の責任を保った上で、バランス良く市民意向を把握できるメリットがある。
- 加えて、「プランニングセル」は参加者に直接説明を行い、参加者同士が議論するワークショップ形式でもあるため、直接参加者との情報共有を行い、議論を通して参加者のアイデアを引き出すという面でも適している。



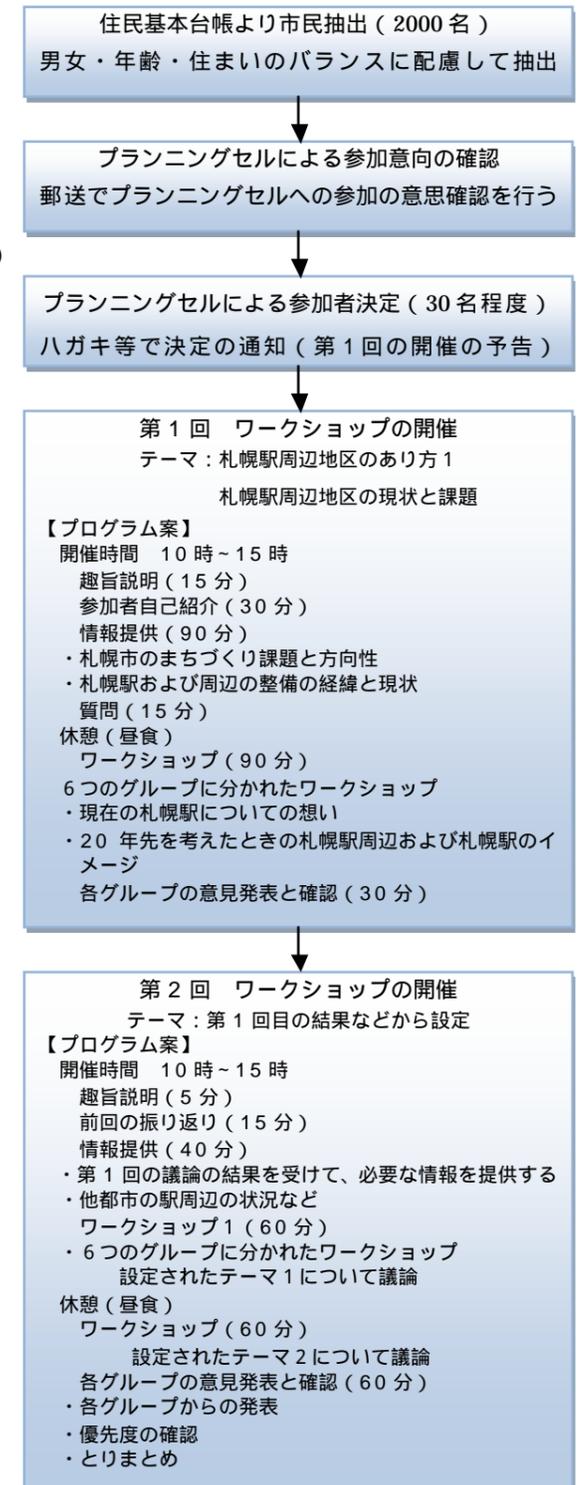
(2) プランニングセルの進め方

【開催の手順】

- 住民基本台帳から、年齢、性別、住所(区)のバランスを考慮しながら2000名程度の市民を抽出する。
- 抽出した市民にプランニングセルの参加意向確認を行い、参加意識のある市民から30名程度を選びプランニングセルへの参加者を決定する。
20代~60代から各世代6名(男性3名・女性3名)
- プランニングセルは、1月下旬~2月初旬の土曜日・日曜日に2回開催を行う。
- プランニングセルでは、必要な情報提供したうえで、参加者にワークショップ形式で一般的な市民意見の傾向を把握する。
- プランニングセルで確認された一般的な市民意見の傾向については、第2回の札幌駅交流拠点再整備構想案策定委員会に提示していく。

【ワークショップのテーマ】

- 第1回目では、市民意見の傾向を広く把握する必要があるため、テーマを絞らずに札幌駅全般についての考え方について意見交換を行う。
- 第2回目では、第1回目での意見結果から札幌駅交流拠点として重要と考えられるテーマを2、3設定し、第2回目の議論テーマとする。



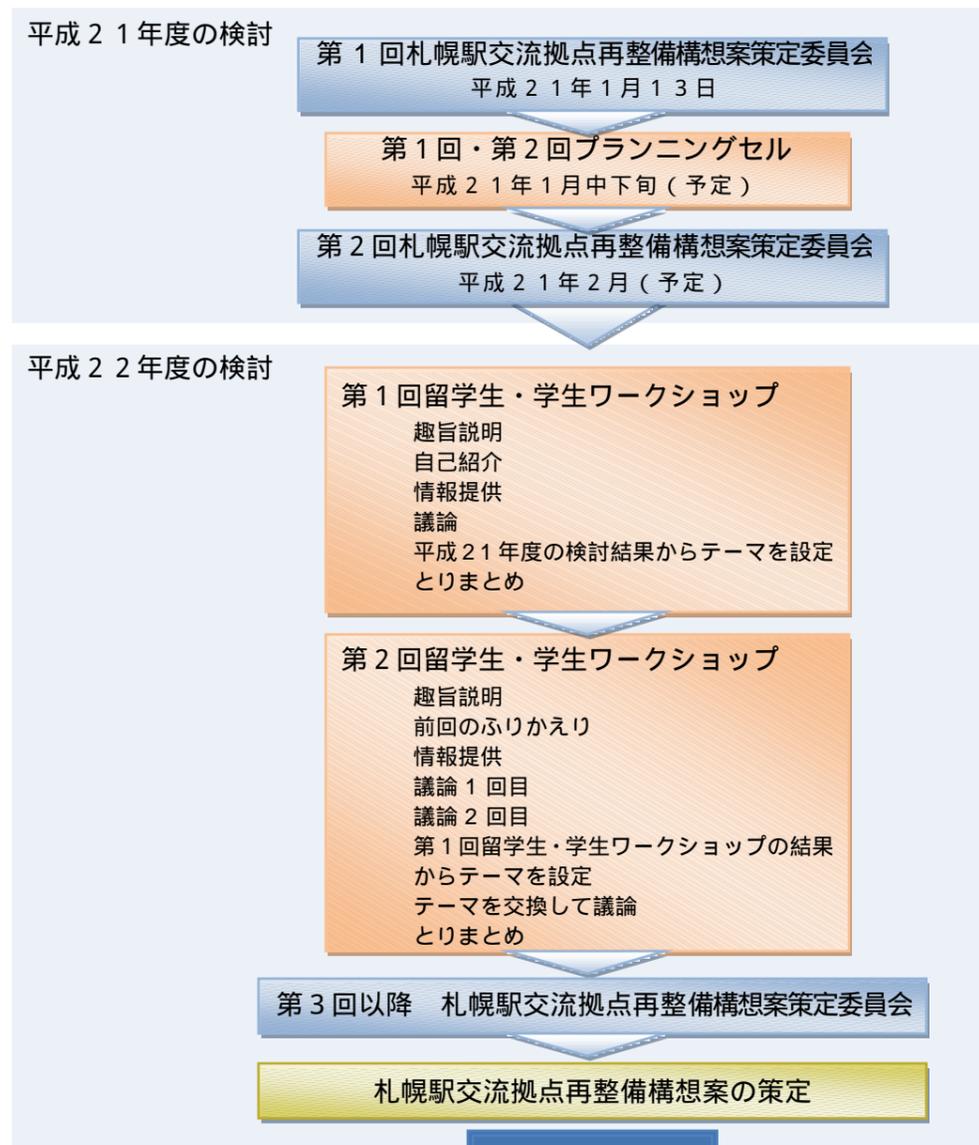
平成22年度の検討に向けての提案 ~留学生・学生のワークショップ~

【目的と対象】

- 札幌駅交流拠点再整備構想案は、おおよそ20年後を想定していることから、一般市民を対象とした「プランニングセル」に加えて、平成22年度に留学生と学生の参加の場を設ける。
- 参加を募る学生は、日常的な利用者として札幌市内の大学生、道都の玄関口としての視点から札幌市外の大学生、国際都市の顔としての視点から札幌の大学の留学生を対象とする。

留学生・学生のワークショップ
 将来にわたる札幌駅交流拠点の利用者という視点から留学生と学生によるワークショップを開催する。
 参加対象
 札幌市内の学生、札幌市外の学生、留学生

留学生・学生のワークショップの進め方案



市民参加の結果は、札幌駅交流拠点再整備構
 想案に盛り込み、札幌市へ提言する

札幌市へ提言